

教育ボランティア ニュースレター

創刊号

発行日 平成19年9月

教育ボランティアさんに、糖尿病で教育入院中の患者さんとして学生と話しをしていただきました！

「教育ボランティア」とは

授業にお越しいただき、生活のご様子や健康への取り組みなどをお話しいただいたり、模擬的に患者役になっていただいて学生とやりとりしていただくボランティアさんのことです。

ボランティアさんに参加いただくことで、学生は、健康と生活の関係をリアルに理解でき、看護師、保健師として自分にできる支援を具体的に考えていきます。

《今後のボランティアのお願い》

来年1月頃、学生が行う健康教育に対するコメンテーターとしてご協力をお願いしたいと考えております。

近くなりましたら詳細についてお知らせいたします。

編集・発行

神戸市看護大学 現代GP
教育ボランティア部門

7月9日、「基礎看護技術演習Ⅲ」の授業に20名のボランティアさんの参加をいただきました。みなさんには、糖尿病で教育入院をしている患者として、看護者役の学生と約10分間話しをしていただきました。

みなさんから次のような率直なご意見、ご感想をいただきました。

○患者体験を持つ身として、学生にもっといろいろなことを話してあげたかった。

○こちらの目をじっと見て真剣に話しを聞いてくれる姿が好印象だった。本当の看護師さんに話しをしているような錯覚になった。きっとその学生はいい看護師さんになると思う。



○糖尿病患者の事例だったが、患者役を演じる際には糖尿病の知識が必要で、少し難易度が高かったが、こちらの勉強になった。

○3名の学生に患者役を演じてみてわかったことは、学生によって知識に差があるということ。学生にはそのことを伝えてあげたかった。

教育ボランティアさんの参加で、臨場感のある学習ができています。

ボランティアさんが患者として入ってくださることで、学生は臨場感のある体験ができました。授業を終えた学生は次のように話していました。

○病院実習のことが想定できた。

○沈黙に困ることもあったが、ボランティアの方が助けてくれた。

この他にも、交通事故で腕を骨折した患者になっていただいて学生がそのお食事を援助したり、健康のことを意識した生活の様子をお話しいただいたり、などのご協力をいただいています。

みなさんにとっても教育ボランティアの体験から何かを得ていただけるようです。今後もご協力のほどよろしくお祈りいたします。